

持続可能な社会の実現に向けて

豊島事件を教訓に 自動車リサイクル事業を通じて 資源循環型社会の構築に 貢献していきます

■豊島事件の経緯

我が国戦後最大級の産業廃棄物不法投棄事件である「豊島事件」は、瀬戸内海に浮かぶ美しい島・豊島で発生しました。1970年代後半から始まったと見られる不法投棄は、1990年11月に兵庫県警が摘発するまで続けられ、豊島に持ち込まれた産業廃棄物の総量は約90万トンに上りました。

国の専門委員会による調査の結果、廃棄物には鉛、PCB、ベンゼン、トリクロロエチレンやダイオキシンなどの有害物質が非常に多く含まれており、それらによる汚染は廃棄物層直下の土壌や処分地内の地下水にまで及んでいることが判明しました。

兵庫県警の強制捜査から3年後、民法上の時効が成立する前に豊島の住民は公害調停を申請（1993年11月）します。この調停が最終合意に至ったのは、2000年6月のことでした。

その後廃棄物の処理施設などが完成し、2003年から本格的な処理・島外撤去作業を開始します。そして2017年3月28日に、豊島からの産業廃棄物搬出が完了したことが報告されました。しかし2018年になって新たに、地中から約600トンの廃棄物等が見つかります。その新たな廃棄物等の島外撤去が完了したのは、今年7月に入ってからです。公害調停から実に26年が経過していました。

一方で廃棄物による地下水などの汚染は未だ深刻で、浄化作業が完了するまでには、まだ長い時間を要します。そして不法投棄によって破壊された植生を再生するには、さらに長い年月が必要となるのです。

豊島に不法投棄された産業廃棄物の中で、最も量が多かったのは使用済み自動車からのシュレッダーダストでした。NGPは使用済み自動車の適正処理を高度化し、その使用済み自動車から有効に活用する「リサイクル部品」を社会に提供することで、資源循環型社会構築への使命を果たしていきます。

■豊島事件を教訓として、リサイクルシステムのさらなる高度化を促進

大量生産・大量消費・大量廃棄の経済システムを背景とした豊島事件は、現代社会



豊島事件の産業廃棄物不法投棄現場の現在。廃棄物の撤去が終わっても、地下水などの汚染の浄化にはまだ長い時間が必要となる

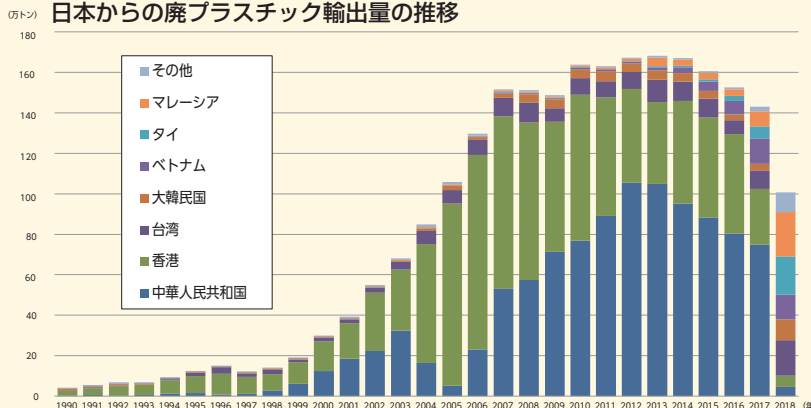
が抱える大きな問題を我々に投げかけています。私たちは豊島事件を教訓として、リサイクル化を徹底し、限りある資源の有効活用を進め、資源循環型社会を構築していかなければなりません。

その一方で、世界全体におけるリサイクルの流れを大きく変化させる出来事が、いままさに起こっています。

これまで世界各国から廃プラスチックなどの再生資源を多量に輸入していた中国が輸入規制を改正し、段階的に廃棄物の輸入の規制・禁止を開始しています。それにより2017年12月末日から非工業由来の廃プラスチックの輸入が禁止となり、2018年12月末日からは工業由来の廃プラスチックの輸入も禁じられました。

この規制を受けて、日本国内からの廃プラスチック輸出先が中国から東南アジア各

日本からの廃プラスチック輸出量の推移



国へと移り変わっています。しかし急激な廃プラスチック輸入量の増加は、東南アジア各国でも問題視されており、各国で輸入規制を強化する動きが見られています。これらの動きにより廃プラスチックの輸出量は減少しており、国内には行き場をなくした廃プラスチックがあふれ始めています。

廃棄物を小さな島や国に押しつける「豊島事件」の悲劇を、二度と繰り返す訳にはいきません。資源を有効に活用するリサイクルシステムのさらなる構築に努め、持続可能な社会を実現するための具体的な計画・行動が、いま社会全体に求められています。

■豊島環境再生へ向けて

7月、NGPは「自動車リサイクル事業を通じて未来のために今できること」をテーマに、2015年国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の取り組みを推進する活動をスタートさせました。その一環としてNGPは豊島事件をきっかけに設立された「瀬戸内オリーブ基金」の協賛会員となりました。これは自動車関係の企業・団体としては初めてとなります。

同23日に行われたSDGsに関する記者説明会において佐藤幸雄理事長は「瀬戸内オリーブ基金の事業活動に賛同し、少しでも豊島の環境再生活動に貢献したいと考えた結果、自動車リサイクルに係わる我々こそが、豊島の環境再生活動を応援しなければならぬと思いました。ぜひNGPだけではなくこの業界に関係する皆様にも、オリーブ基金の活動に賛同いただき、協賛だけではなく豊島の環境再生活動に直接携わっていただきたいです」と、環境再生へ向けた熱意を強調しました。

■瀬戸内オリーブ基金とは

2000年、豊島事件の調停成立をきっかけに、建築家の安藤忠雄氏と豊島事件弁護団長の中坊公平氏が呼びかけ人となって設立されたNPO法人です。豊島だけではなく瀬戸内の環境保全や再生に関する活動を行う団体への助成を行うほか、海ゴミの回収、環境教育事業などを行っています。また、植樹の実績は16万本を越えました。

■豊島環境保全活動に参加

NGPの本部メンバー3人、委員会メンバー及び有志6人の合計9人は8月27・28日の2日間、豊島にて環境保全活動を行いました。初日はオリーブ基金職員の協力の下、柚の浜海岸での環境保全活動を行

いました。柚の浜海岸は元来、ヤマモモの自生する穏やかな場所でしたが、近年ではサボテン、ノイバラ、笹などの外来種や雑草が群生するようになっており、あるべき姿に戻すための除草作業を行いました。こちらの海岸で保全活動を行うのは団体としてはNGPが初めてとなります。

また、実際に不法投棄が行われた現場や、豊島事件の発端やこれまでの経緯が克明に記録された資料館の見学を行いました。

資料館の入口には、産業廃棄物の不法投棄で出来た山の一部分を切り取ったオブジェが展示されています。最大18メートルの高さで約6万9千m²（東京ドーム5個分以上）に渡り不法投棄された廃棄物の体積は約62万2千m³にもなります。この壁の産業廃棄物はすべて島外から来たもので、豊島によるゴミは一切ありません。事件の当事者として企業や行政と戦い続けてきた安岐正三氏は当時を思い返し、「豊島事件の被害者は、加害企業と行政に2回殺されました。不法投棄を続けた企業、不法投棄が終了した後も廃棄物の処理を放置した行政にです」と言います。事件当時、反対運動に参加した592人の島民のうち、すでに340人の方が高齢化などで亡くなっています。廃棄物の壁を前に安岐氏は「私たちは、廃棄物が無くなった後も豊島事件の事実と教訓を次の世代に語り継がなくてはなりません。そのためにもこの廃棄物層のはぎ取り断面を残しました。大量生産・大量消費・大量廃棄の社会が生んだこの悲劇から学び、私たちは自らの生活を見直さな

ければなりません」と力強く話しました。

2日目は横引ヶ浜海岸に漂着したゴミの回収を行いました。発泡スチロールやビニール袋、ペットボトル、緩衝材などその多くは島外から漂着したものです。プラスチックごみは自然分解がされず、数百年以上も残り続けると言われています。また、多くのプラスチックごみは波や紫外線の影響などで小さなプラスチックの粒子（マイクロプラスチック）となり、魚など海に生きる生物の生態系の破壊に繋がります。これらは「海洋プラスチック問題」として世界的にも深刻なものとなっています。現在、日本でもレジ袋の自粛やストローの非使用を推奨するなどの動きが見られますが、世界的にみるとまだまだ遅れている状況です。

活動後、オリーブ基金職員の方たちと今回の環境保全活動に向けた意見交換が行われました。

今回環境保全活動に参加した鈴木成幸専務理事は、「今、世界は資源の枯渇や増加する廃棄物、温暖化問題など深刻な状況にあります。限りある資源の有効活用を進め、ごみの排出量を抑制していくのはNGPとして当然の使命です。そのためにも、私たち一人ひとりが環境への意識を高め、活動をしていくことが大切です。今後も豊島での活動を継続的に行うことで、私たちが望む未来創造や持続可能な社会の実現の一歩をしたいと思います」と話しています。



環境保全活動に参加した杉之間大和委員長（右端）とNGP委員会メンバー及び本部メンバー



産業廃棄物層から取り出された壁を前に、安岐正三氏から豊島事件の経緯や詳細を教えてもらう



雨の降る中、海岸で漂着ゴミの回収を行うメンバー



プラスチックやブイなど多くのゴミを分別、回収を行った

一般向け商材に新たな商機を見る

Topics



イサムエアゾール工業

除雪車のショベルやLEDヘッドライトなどに用いるエアゾール式の「エアウレタン 滑雪ペイント」を紹介。1缶で約1㎡に使用できる



カンベハビオ

自補修塗料向けコンピューター調色システム「AIカラーシステム」の技術を取り入れた「K-MATCH」を用いた調色作業を実演した



京都機械工具

「ネブロス」の誕生25周年を記念した限定モデルの第2弾を初公開。持ち手部分にパンチングレザーを使用し、使用者の手になじむ感覚を重視している



呉工業

アメリカ発の接着剤ブランド「ゴリラ」の各種製品をPR。接着力の高いダクトテープは、テールランプの割れを一時的に補修するなどの使い方もできる



コスモコーティング

防水性、保湿性などに優れた皮革製品専用のコーティング剤「革王」を実演販売。大手通販サイトや大型ショッピングモールなどでも取り扱う



ジェントス

上下左右に回転する作業ライトを訴求。底はボンネット内側にライトを固定する用のマグネットを、背面には柱などに掛けられるフックを備える



スリーエムジャパン

内外装の接着などに用いる両面テープ各種を紹介。ダッシュボード用のものは、付属の透明糸を用いて接着面を取り外すこともできる



ボンド商事

LPGと有機液体金属を混合させた炎を吹き付け、素材表面にケイ素被膜を発生させることで親水性や接着性を高める「フレイルボンド」を展示した



武蔵ホルト

スプレーで塗料を吹きかけることで小傷を目立たなくする「タッチガン」や、自然光で硬化する「光硬化イージーパテ」といったDIY補修用製品を訴求

日本ドウ・イット・ユアセルフ協会は8月29～31日の3日間、幕張メッセ（千葉県千葉市）でジャパンDIYホームセンターショー 2019を開催しました。

「国内最大級の住生活に関する総合展」を銘打った同展には、一般ユーザー向けの工具、塗料、作業服、電化製品など約20万アイテムが集結。カーアフター業界においては、ボデーの親水性や接着性を高める表面処理システムや小傷の補修に使えるスプレータイプの塗料など、従来のDIY補修よりも一歩進んだ補修のための製品が数多く披露されました。

また、自補修向けコンピューター調色シ

ステムを建築塗料の調色に転用したり、ボデーコーティング剤の開発技術を活かして皮革製品のコーティング剤を開発するなど、自補修業界で培った技術を基に新たなビジ

ネスチャンスを見出す事例も見られました。

485社が出展し、3日間で合計86,492人が来場しました。次回は2020年11月5～7日、同所で開催される予定です。

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和元年8月：

2,411t



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和元年8月

1.4t

※自動車リサイクル部品産業共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

ベルマーク運動説明会来場者に対して、 自動車リサイクルに関するアンケートを実施

NGP協同組合が協賛団体として2012年より加入しているベルマーク教育助成財団は、2019年5月7日から全国で「2019年ベルマーク運動説明会」を開催しました。

NGPは全国24ヵ所の会場に参加し、多くの方々（合計1,080校から出席した2,699人の来場者）へ向けて、リサイクル部品の活用による環境保全への効果などを説明することができました。

またNGPは9つの会場で、自動車リサイクルに関するアンケート調査を実施しました。その回答結果の一部を紹介します。

■来場者アンケートの結果

アンケートでまず自動車リサイクル法の認知度を確認したところ、その存在を知っていたのは37%のみで、半数以上は自動車リサイクル法を知りませんでした。また自動車リサイクル部品についても「知っている」と回答した人は36%で、半数に届きませんでした。

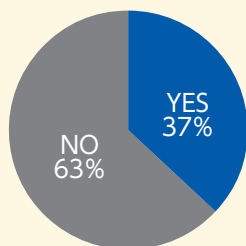
自動車リサイクル部品の認知度自体が低いため、自動車リサイクル部品が環境に優しい事を知っていた人も25%に留まっています。一方で15%の人は、過去に自動車修理でリサイクル部品を利用した経験がありました。

「自動車のリサイクルについて、まっ

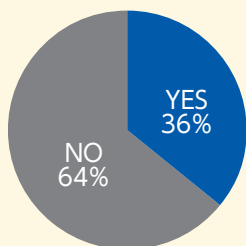
たく知りませんでした」などのコメントも多く寄せられ、自動車リサイクル事業全体に対する認知度がまだまだ低いことが分かりました。一方、「自動車にリサイクル部品があることを初めて知りました。今後使ってみたいと思います」と、リサイクル部品を初めて知った来場者からは、その利用に関して積極的な意見が目立ちました。環境保護への関心が高い層は特に、リサイクル部品の活用に積極的な傾向があるようです。

NGPは今後も自動車リサイクル業界全体の認知度向上を目指した各種取り組みを継続し、広く世の中に向けてリサイクル部品の活用を提案していきます。

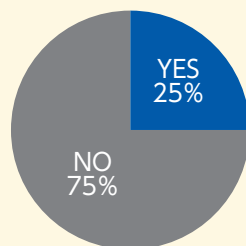
自動車リサイクル法をご存知ですか？



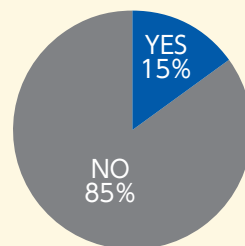
自動車のリサイクル部品（中古部品）をご存知ですか？



自動車リサイクル部品が環境に優しい事をご存知でしたか？



自動車修理にリサイクル部品を利用したことがありますか？



合計1,000名様に当たる！ 「NGP選べる3つのプレゼントキャンペーン」開催！！

皆様からのご好評にお応えして、「NGP選べる3つのプレゼントキャンペーン」を、10月1日～11月30日までの2ヵ月間開催致します。

ギランティシール3枚を1口として応募していただく際に、「年末ジャンボ宝くじ」、「Amazonギフト券」、「JCBギフト券」のいずれかをお選びいただくことができます。そして当選時には、その選択した賞品をプレゼント致します。

応募用紙は各NGP組合員より皆様に配布するほか、当組合Webサイト（<http://www.ngp.gr.jp/>）からダウンロードすることも可能です。

お一人様何口でもご応募いただけます。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

プレゼント内容

- | | | |
|----|--|-------|
| 1等 | 年末ジャンボ宝くじ300枚またはAmazonギフト券 or JCBギフト券 90,000円分 | 1名様 |
| 2等 | 年末ジャンボ宝くじ100枚またはAmazonギフト券 or JCBギフト券 30,000円分 | 3名様 |
| 3等 | 年末ジャンボ宝くじ10枚またはAmazonギフト券 or JCBギフト券 3,000円分 | 996名様 |



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生する CO₂ 全てをカーボンオフセット（相殺）した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。